

(23) 平成7年(1995年) 7月9日(日曜日)

Sunday 世界日報

日韓トンネル研九州支部

国家プロジェクトへ転換を

日本と大陸を連結する「日韓海底トンネル」実現に向けて調査研究を続けている国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会（会長・佐々保雄北海道大学名誉教授）の、九州支部第十三回通常総会と記念講演会が六月三十日、福岡市内で行われた。写真。



記念講演では清水馨八郎千葉大学名誉教授と高橋彦治元鉄道技術研究所所長が「日韓トンネルプロジェクト十二年間の総括とこれから」と題してそれぞれの立場から活動総括と今後の課題について持論を展開した。

同研究会の政策委員でもある清水名誉教授はまず、同プロジェクトの十周年目を振り返り、ばく大な資金を投入して日韓トンネルを通ず地域の地質調査、基礎調査研究を行った末、建設可能の結論に達したことを強調し、民間レベルから国家レベルプロジェクトに押し上げる運動を進めてきたことを説明。

と一昨年から日韓中・国際

シンポジウムを三回開催し、韓国KBSテレビの取材に応じたり、次期全総に同プロジェクトをのせるための運動として国会議員の勉強会や地元九州での活動を進めてきたことを強調した。

また、今年が同プロジェクトの十二周年にあたり、反省・分析すべき点として①賛同者（経済人、文化人への宣伝の必要性）②宗教的・科学的脱皮して現実的経済・科学技術的効果をPRすること③東アジア時代への日本の貢献に最適なプロジェクトであることのPRなどを挙げ、「トンネルだけでなく橋を架けることも視座に置き、観光価値を高めて『日韓架け橋構想』というイメージを持たせることが大切」と訴えた。

一方、高橋氏はこれまでの調査研究資料を整理した上で、今後の課題として①日韓トンネル第二次基本構想の研究推進②施工調査の研究③対馬海峡の東西両水道にある新堆積層がシールド工法に適しているかの調査などを挙げ、日韓両国の大動脈となる同プロジェクトが大量・高速・多目的輸送システムを確立して新幹線やリニアモーターカーまで通ずるものとして相互補完的な総合交通体系を充実させ、厳しい環境条件でも対応可能なメンテナンスを準備することの必要性を強調した。（福岡支局）